

特別な教育的支援が必要な幼児児童への指導の手立てを充実させるための効果的な連携に関する研究
幼児期における指導の手立てと成果を小学校へ円滑に接続するための方策

奥田 雅紀^{**} 今井 章文^{***} 吉田 千波^{*} 澤田 崇史^{**} 宮田 樹哉^{**}

目 次

本研究を活用するために	1
はじめに	
1 幼稚園等と小学校との接続の現状と課題	2
2 発達障害のある幼児の幼小の接続に関する課題	3
幼稚園等から小学校への引継ぎ	
1 幼稚園等と小学校との段差	4
2 接続期の教育的ニーズ	5
3 引継ぎに生かすための幼児の実態と身に付けた力	6
4 幼稚園等と小学校との引継ぎの視点と活用	
(1) 幼小の接続を円滑に行うための引継ぎの視点	7
(2) 引継ぎ情報のまとめ方	9
(3) 引継ぎの視点を生かすシート	11
5 幼稚園等と小学校との接続の在り方	12
地域で幼稚園等と小学校との接続を進めるために	
1 個別の支援計画を効果的に活用した引継ぎ	16
2 本人にとってのキーパーソンが寄り添いながらの引継ぎ	18
3 市の教育委員会が中心となって進める幼小の引継ぎ	20
まとめ	22
引用文献・参考文献	23

^{*} 視覚障害教育室 ^{**} 知的障害教育室 ^{***} 情報教育室

研究の概要

研究の趣旨

幼稚園教育要領や小学校学習指導要領では、幼稚園や保育所や認定こども園（以下、幼稚園等）と小学校の教育について、子どもの発達や学びの連続性を確保するため、学校間の接続の重要性が示されている。

本研究の対象となる発達障害のある幼児児童は、幼稚園等と小学校で教育課程や指導方法が異なることなどにより、就学後の学校生活への適応に時間がかかる場合がある。このことから、幼児に対して一人一人の教育的ニーズに応じた指導及び支援を行い、その成果を小学校に引き継ぐことや、就学後の児童に対して幼児期からの継続した指導と支援を行うことが大切である。

本研究では、発達障害のある幼児が就学後の学校生活により早く適応するために、幼稚園等と小学校が引継ぎを行うときの内容や視点を示すことと、円滑な接続の在り方を明らかにする。

研究の目的

発達障害のある幼児児童について、幼稚園等から小学校へ円滑に接続するために必要な引継ぎの内容と視点を示し、幼小の円滑な接続のための方策について明らかにする。

研究の内容、方法

1 研究の内容

- (1) 幼稚園等と小学校が円滑に接続するために、幼児の状態像と、本人の課題や指導・支援の内容、及び支援者・本人・保護者の願いや思いから、引継ぎに必要な情報の内容を示す。
- (2) 発達障害のある幼児児童における幼小の引継ぎの視点や接続の在り方を明らかにする。
- (3) 幼稚園等から小学校への接続を、円滑に行うための方法を例示する。

2 研究の方法及び経緯

本研究は平成21年4月から平成23年3月（2年間）までの期間、次の方法により実施した。

(1) 文献調査

先行研究や先進地域での円滑な引継ぎの取組の整理・分析を行う。

(2) 事例検討

ア 研究アドバイザーなどより、円滑な接続のための情報・資料を収集する。

イ 幼稚園等で支援を行っている幼児の指導事例の収集・考察を行う。

ウ 円滑な接続のための情報・資料の分析を行う。

研究の成果

- 1 幼稚園等と小学校が円滑に接続するために、幼児の状態像や、本人の課題や指導・支援の内容、及び支援者・本人・保護者の願いや思いから指導の手立てや配慮事項について把握する方法を示した。
- 2 発達障害のある幼児児童における幼小の引継ぎの視点や接続の在り方を明らかにした。
- 3 幼稚園等と小学校とが、円滑に接続を行うための方法を例示した。

□ 本研究を活用するために □

■ はじめに

発達障害のある幼児の幼小の接続についての現状と課題を整理しました。

■ 幼稚園等から小学校への引継ぎ

幼稚園等と小学校との円滑な接続の在り方について、引継ぎの視点や方法の観点から、考え方を明らかにしました。

第1節 P.4

幼稚園等での教育から小学校教育への接続における段差について述べています。

第2節 P.5

接続期の教育的ニーズについて述べています。

第3節 P.6

幼稚園等での指導や支援について、引継ぎに向けての幼児の情報の整理方法を述べています。

第4節 P P.7-11

引継ぎにおける視点を明らかにし、引継ぎのためのシートを例示しました。

第5節 P P.12-13

幼稚園等と小学校との接続のための、在園期間から就学後までの各時期の取組の要点について述べています。

書 式 P P.14-15

幼小引継ぎシート

■ 地域で幼稚園等と小学校との接続を進めるために

引継ぎの取組方法を、事例を通して紹介しました。

幼児の状態像の把握方法について例示しています。

幼児の状態像の整理方法について例示しています。

地域での幼小の接続における引継ぎの実際について、例示しています。

地域で幼稚園等と小学校の接続を進めるために（P P.16-21）

■ まとめ

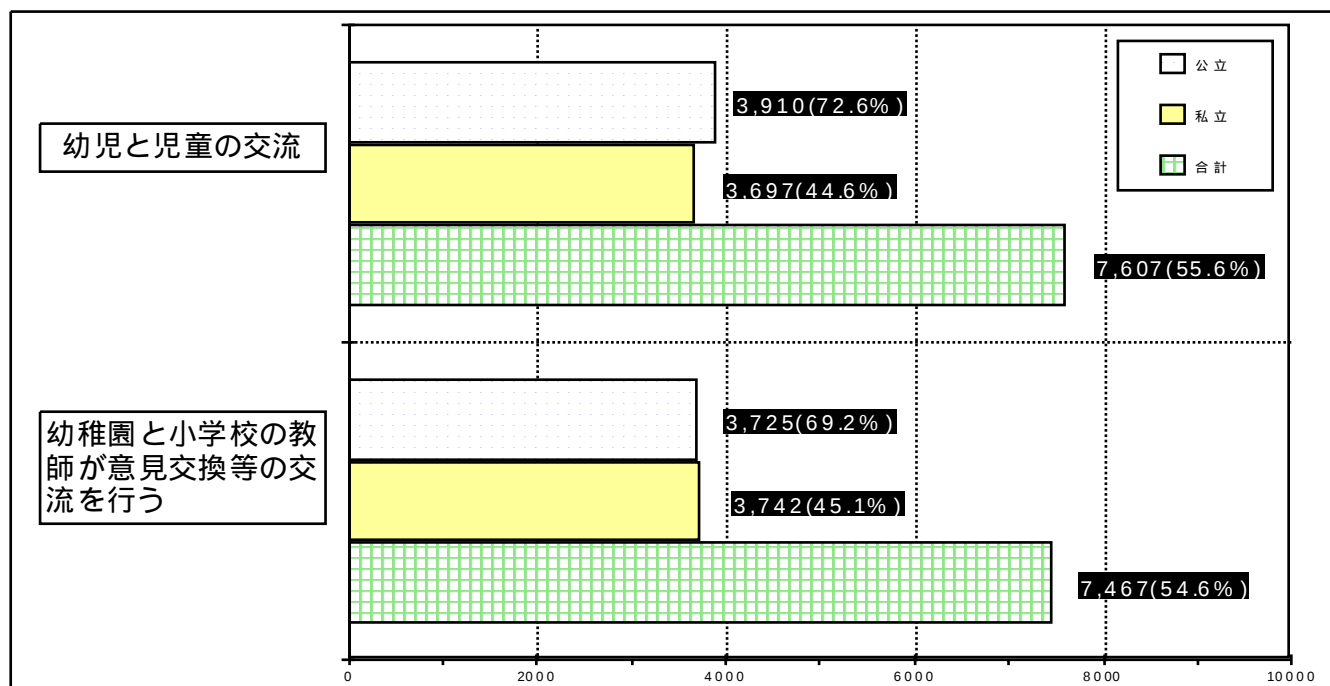
本研究の成果と課題について整理し、まとめました。

はじめに

1 幼稚園等と小学校との接続の現状と課題

幼稚園等と小学校との接続（以下、幼小の接続）については、幼稚園教育要領において、「幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図ること」（第3章第3節5）と述べられており、接続の重要性が示されています。また、小学校学習指導要領や保育所保育指針では、幼小の接続を相互に留意することが述べられています。

「平成20年度幼児教育実態調査」（平成21年3月、文部科学省初等中等教育局幼児教育課）によると、「幼児と児童の交流」が実施されている割合は55.6%、「教師同士の意見交換等の交流」が実施されている割合は54.6%となっています。（下図参照）



この調査結果について、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（平成22年11月11日、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）においては、「幼児と児童の交流活動や幼小の教職員の意見交換等の取組はある程度行われてきている」と評価する一方、課題として「幼小接続の取組を進めるには、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた幼児期から児童期にかけての教育のつながりを理解するための道筋を明らかにすることが必要である」と述べています。

2 発達障害のある幼児の幼小の接続に関する課題

「特別支援教育の更なる充実に向けて（審議の中間とりまとめ）～早期からの教育支援の在り方について～」(平成21年2月12日特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議)では、「早期からの教育支援の体制が整備され、就学前から就学先のそれぞれの学校において、子どもの将来の自立と社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズに対応した適切な指導及び必要な支援が推進されることを期待」していると示されています。この報告は、今後の特別支援教育の観点から幼小の接続に関する課題について検討するに当たり、多くの示唆を与えるものです。

また、「幼児期の教育に携わる方のための特別支援教育研修会」(北海道教育委員会主催 平成22年11月13日実施)での受講者アンケートにおいて、発達障害のある幼児の幼小の接続に関する記述を下表のように整理しました。

幼児の実態の
共通理解に関
すること

- 関係機関の職員が引継ぎと一緒に入って心強かった。
- 引継ぎの内容が小学校に正確に伝わっているか、小学校側も必要な情報が受け取れているのか不安である。

引継ぎの内容
に関する事

- 幼児と児童の交流は少しずつ増えていて、年間計画にも位置付けて実施している。
- 指導要録の内容を引き継いでも、幼児のことが正しく伝わっていないように感じる。

引継ぎの方法
に関する事

- 幼小の引継ぎは、指導要録を中心に行っている。また口頭での引継ぎは担当者間で年度末に行っている。
- 話合いのための時間確保が難しい。

○成果に関する記述 ●課題に関する記述

このアンケート結果から、発達障害のある幼児の幼小の接続について、課題となることを次のように押さえました。

引継ぎの内容は、小学校での学習を円滑に始めるために必要な情報の視点で整理すること。

幼稚園等と小学校が、幼児の指導や支援の手立てを共有化できるような引継ぎの方法を工夫すること。

このようなことから、発達障害のある幼児の幼小の接続に関する課題を解決するためには、「小学校就学に当たって必要な指導の手立てや配慮事項を幼児の状態像から把握していくこと」と「幼稚園等と小学校との引継ぎを円滑にするための方法を明らかにすること」と捉えました。

本研究では、発達障害のある幼児児童の中から、特に行動面に特別な教育的支援が必要な幼児児童（以下、行動面に配慮が必要な幼児児童）を対象に、上記の解決策を探ることとしました。

幼稚園等から小学校への引継ぎ

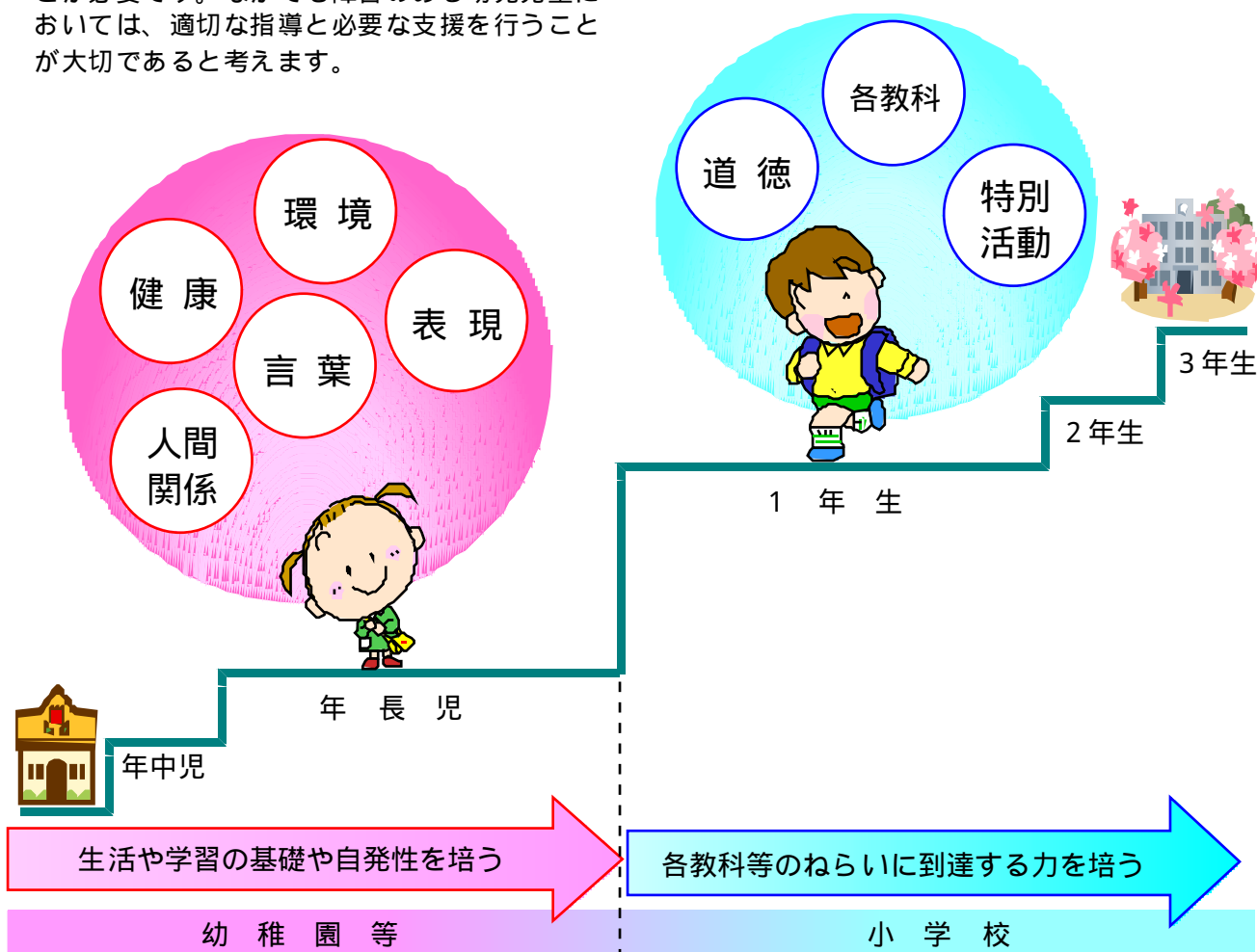
1 幼稚園等と小学校との段差

学校教育法では、幼稚園教育の目的として、「義務教育及びその後の教育の基礎を培う」ことや「幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」ことが示されています。また、小学校教育の目的は、「義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す」とされています。このことから両者の教育においては、連続性・一貫性の下、将来の学びの基盤を培い、「学びの基礎力の育成」を図ることが大切であるといえます。

一方、幼稚園等と小学校との間には、幼児児童の発達段階に応じて、教育課程や指導方法などの違いがあります。

教育課程の観点からみると、幼稚園等は、生活や経験を重視する「経験カリキュラム」、小学校では、学問体系の獲得を重視する「教科カリキュラム」で組まれています。また、指導の観点では、幼稚園等が幼児を取り巻く人や物などの環境を通して、生活や経験からの学びや自発的な活動を重視するのに対して、小学校では、各教科等から構成される教育内容を教師が具体化し、目標に到達することを重視しているなど、内容や方法にも違いがあります。

このように、幼稚園等と小学校の教育は、学びの連続性や一貫性を確保する一方で、学習内容や指導方法において、大きな段差があるといえます。さらに幼小の接続では、段差を乗り越えるほかに、人間関係や環境の変化に伴う不安や緊張などが考えられ、就学後の児童に対して、丁寧にかかわることが必要です。なかでも障害のある幼児児童においては、適切な指導と必要な支援を行うことが大切であると考えます。



2 接続期の教育的ニーズ

本研究の対象となる期間については、幼稚園等の年長の後期（10月以降）から小学1年生の1学期（7月頃）（以下、接続期）までとします。

この期間を教職員などのかかわりの観点からみると、幼稚園においては、就学に向けて小学校以降の生活や学習の基盤の育成を図る時期であり、小学校においては、人間関係や環境の変化に伴い、丁寧にかかわることが必要な時期であると考えます。

また、「特別支援教育の推進について（通知）」（平成19年4月1日、文部科学省）などでは、教育的ニーズの把握が、障害のある幼児児童の適切な指導及び必要な支援を行う上で重要であるとされています。

特に、「小学校及び特別支援学校において、障害のある児童が入学する際には、早期に保護者と連携し、日常生活の状況や留意事項などを聴取し、当該児童の教育的ニーズの把握に努め、適切に対応すること」と示されています。

教育的ニーズについて

教育的ニーズの把握の視点及び把握の方法の整理

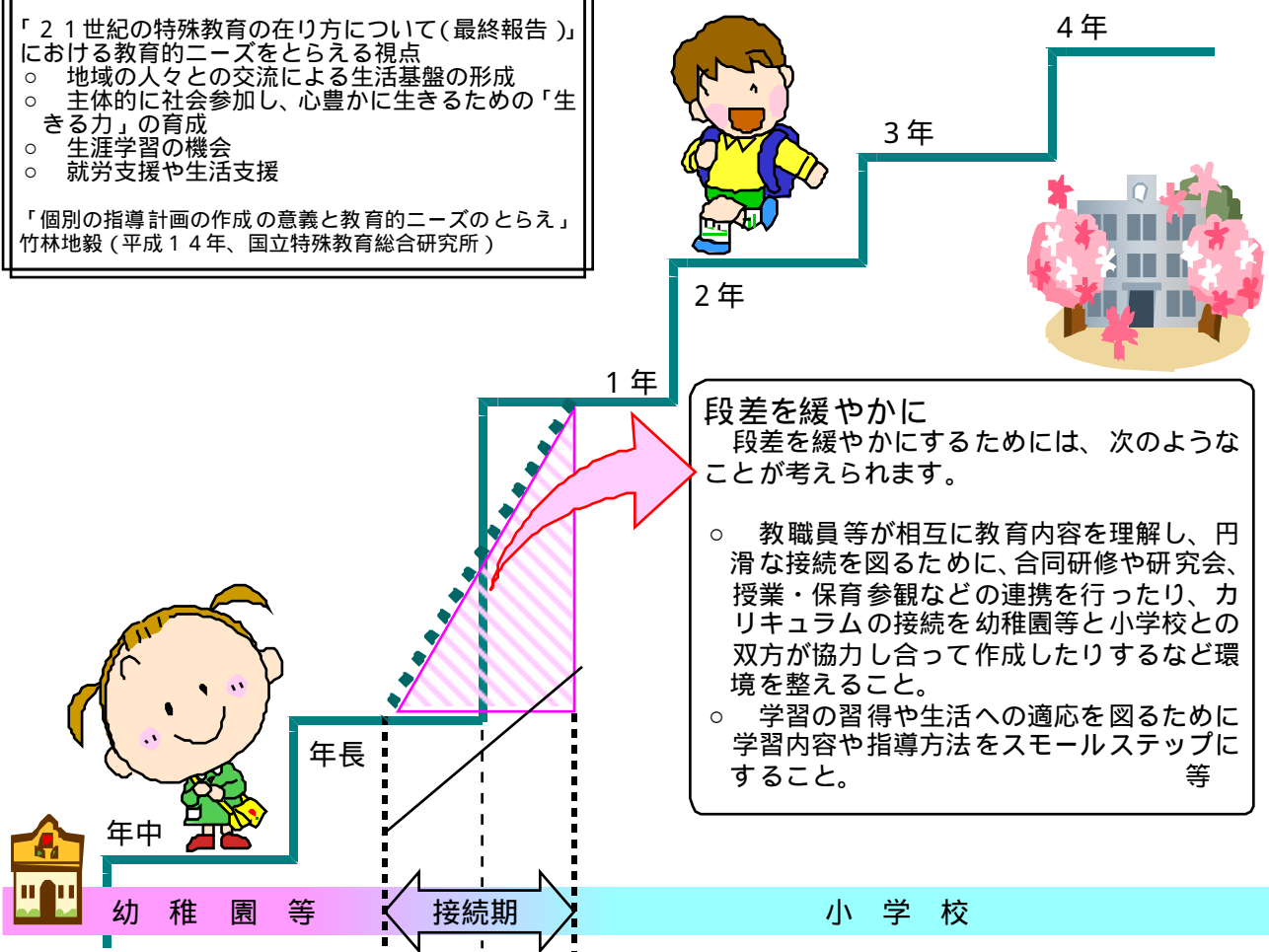
- 現在から未来にわたる豊かな生活を実現するために、その子ども自身が学校教育に求められること
- 現在、必要と判断される事柄で、子ども本人や保護者、教師、社会のニーズ等を総合的に考察した結果として導き出せるもの

「21世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）」における教育的ニーズをとらえる視点

- 地域の人々との交流による生活基盤の形成
- 主体的に社会参加し、心豊かに生きるための「生きる力」の育成
- 生涯学習の機会
- 就労支援や生活支援

「個別の指導計画の作成の意義と教育的ニーズのとらえ」
竹林地毅（平成14年、国立特殊教育総合研究所）

接続期の教育的ニーズとは、幼稚園等と小学校との大きな段差を緩やかに進んでいくために必要な支援の要素や手立てと押さえます。



3 引継ぎに生かすための幼児の実態と身に付けたい力

接続期の教育的ニーズを把握するためには、幼稚園等での生活や学びの状況を的確に知ることが大切です。

幼稚園等での生活や学びの中には、幼児の発達を促すのに必要な環境があります。幼児は、環境の中で遊ぶ経験や、発達の特性を理解した教育により、様々な能力や態度を身に付けます。

幼児期から児童期の教育課程や指導計画につながりをもたせるためには、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方（報告）」（幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）の中で、幼児期から児童期にかけて「三つの自立」（教育課程編成上の留意点）を養うことが必要であると述べられています。

本研究では、接続期における幼児の「三つの自立」の状況を、「幼児の状態像の把握、本人の課題や指導・支援の内容、支援者・本人・保護者等のねがいや思い」から把握することとしました。

このことは、接続期における幼児の実態や身に付けたい力を把握することになり、小学校への引継ぎなどにおいて、重要な役割を果たすと考えます。

三つの自立

「学びの自立」

自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる活動を自ら進んで行うとともに、人の話などをよく聞いて、それを参考にして自分の考えを深め、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現すること。

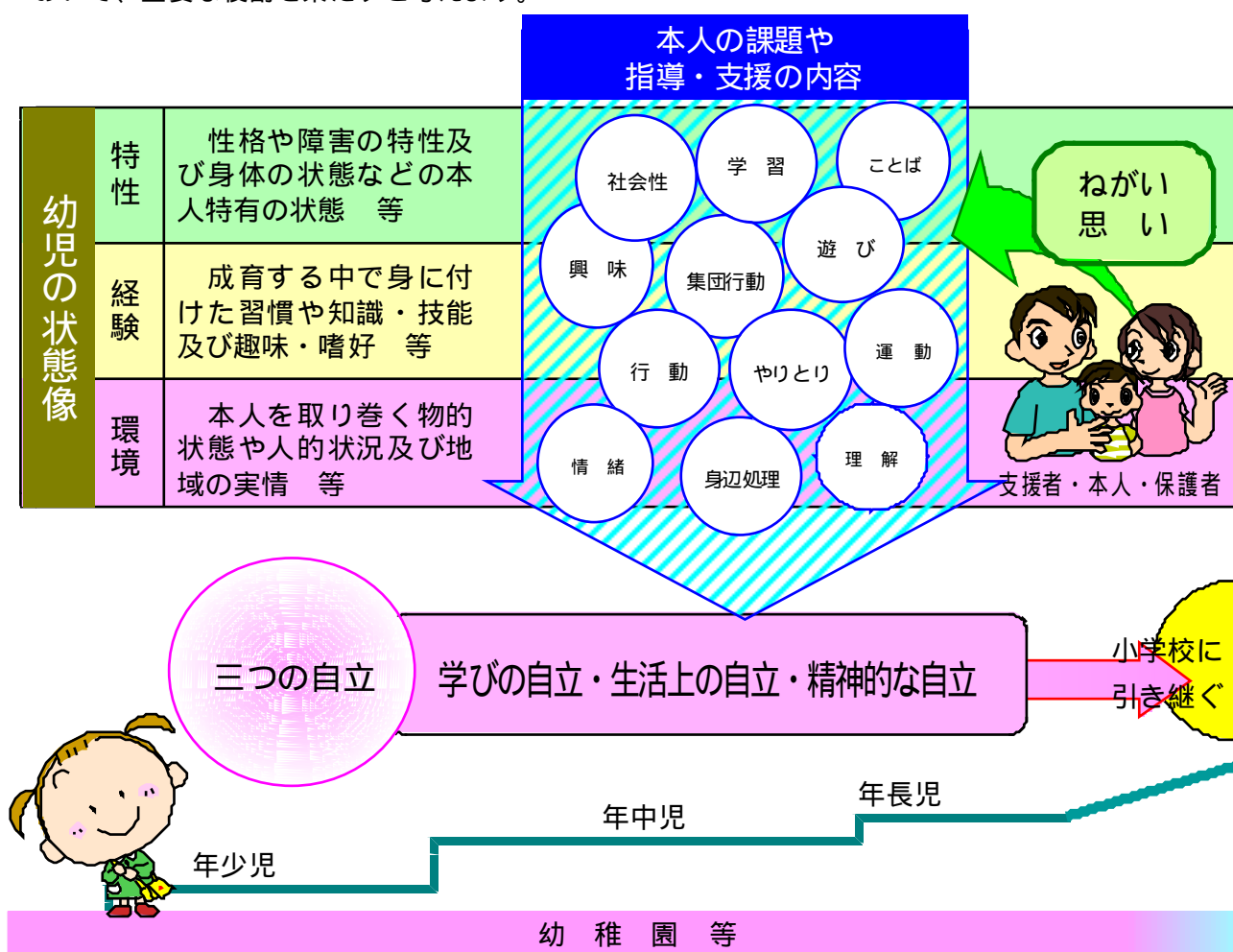
「生活上の自立」

生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々、社会及び自然と適切にかかわり、自らよりよい生活を創り出していくこと。

「精神的自立」

自分の良さや可能性に気付き、意欲や自信をもつことによって、現在及び将来における自分自身の在り方に夢や希望をもち、前向きに生活していくこと。

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方（報告）」（平成22年 文部科学省）



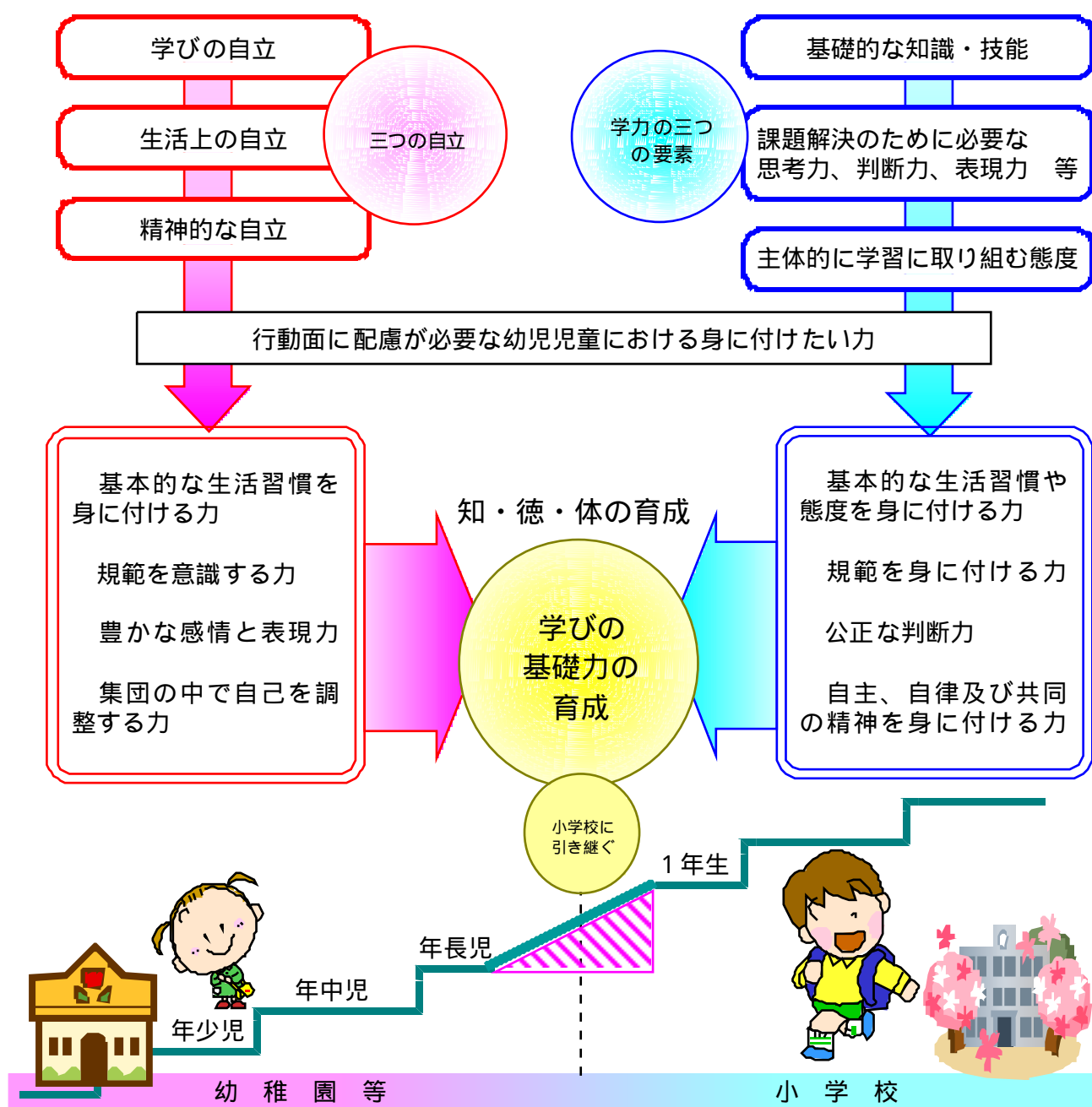
4 幼稚園等と小学校との引継ぎの視点と活用

(1) 幼小の接続を円滑に行うための引継ぎの視点

接続期の教育においては、「学びの基礎力の育成」を図ることが大切です。

学びの基礎力の育成について、幼児期から児童期における「三つの自立」を養うことの重要性は先に述べました。また、児童期及びそれ以降の教育においては、「学力の三つの要素」の育成に特に意を用いなければならない（幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方（報告））と述べられています。

幼小の接続を円滑に行うためには、引継ぎの視点を明らかにする必要があります。本研究では、行動面に配慮が必要な幼児児童における、引継ぎの視点を明らかにするため、「三つの自立」「学力の三つの要素」「学びの基礎力の育成」に着目し、具体化することを探りました。

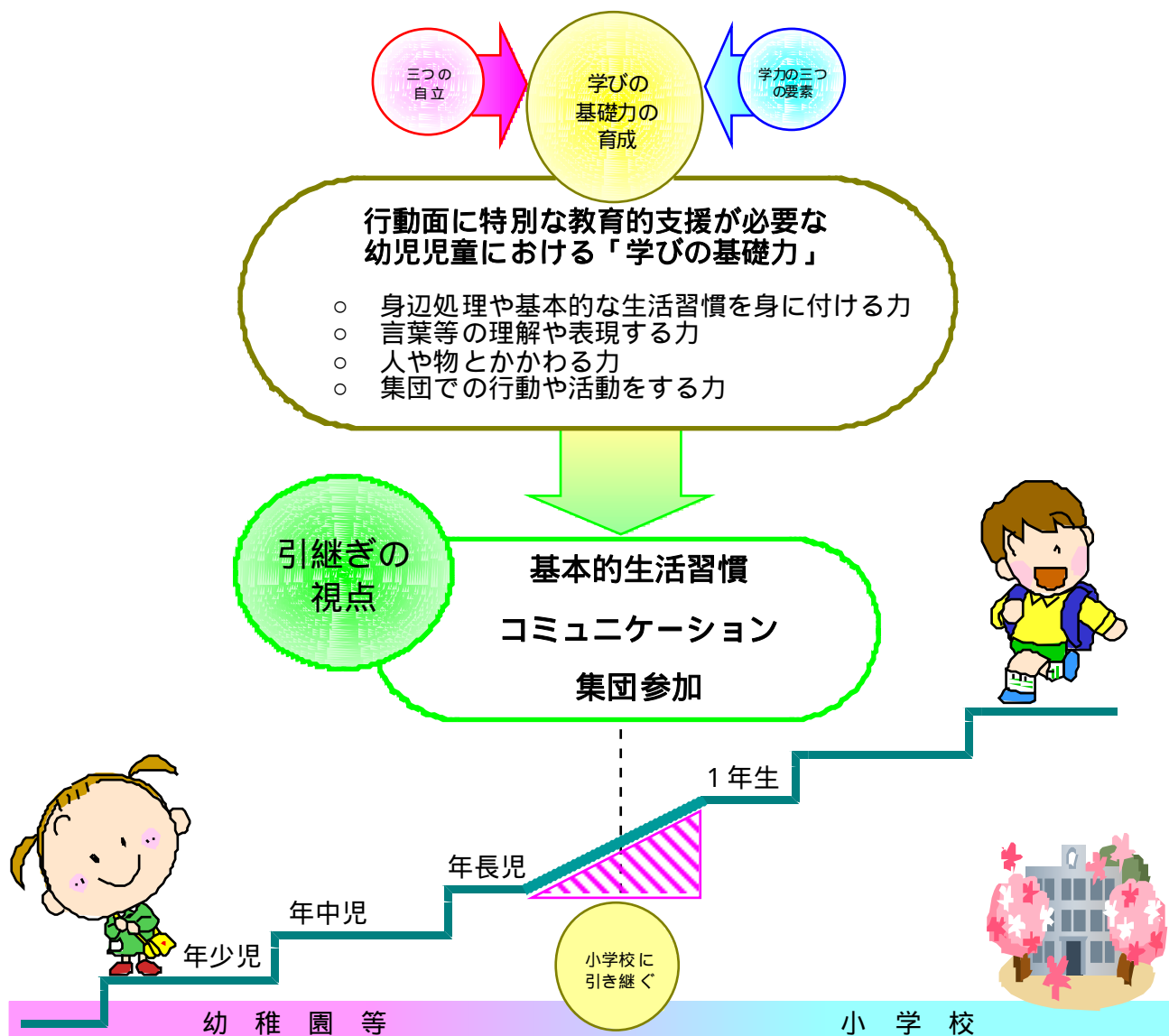


引継ぎの視点を明らかにするため、行動面に配慮が必要な幼児児童における「学びの基礎力の育成」を「三つの自立」と「学力の三つの要素」の観点から、児童の円滑な学校生活のスタートにつなげるため、 身辺処理や基本的な生活習慣を身に付ける力、 言葉等の理解や表現する力、 人とのかかわる力、 集団での行動や活動をする力、 をはぐくむことが大切であると考えました。

これらの力を身に付けたり、培ったりすることで、就学時の段差を緩やかに進むことができたり、就学後の学校生活により早く適応できたりすることになります。

次に、幼小の引継ぎの視点については、行動面に配慮が必要な幼児児童における「学びの基礎力」の内容を、幼稚園等と小学校との間で引き継ぐときに、共通の認識を図りやすくするため、引継ぎの視点を、「 基本的生活習慣」「 コミュニケーション」「 集団参加」と決めました。

引継ぎの視点については、接続期において、幼稚園等の教職員が引き継ぐ内容をあらかじめまとめたり、学校でかかわる教職員が就学後の児童の様子を観察したり、双方の教職員が実際の引継ぎ場面での話し合いをしたりするときのポイントとして活用します。



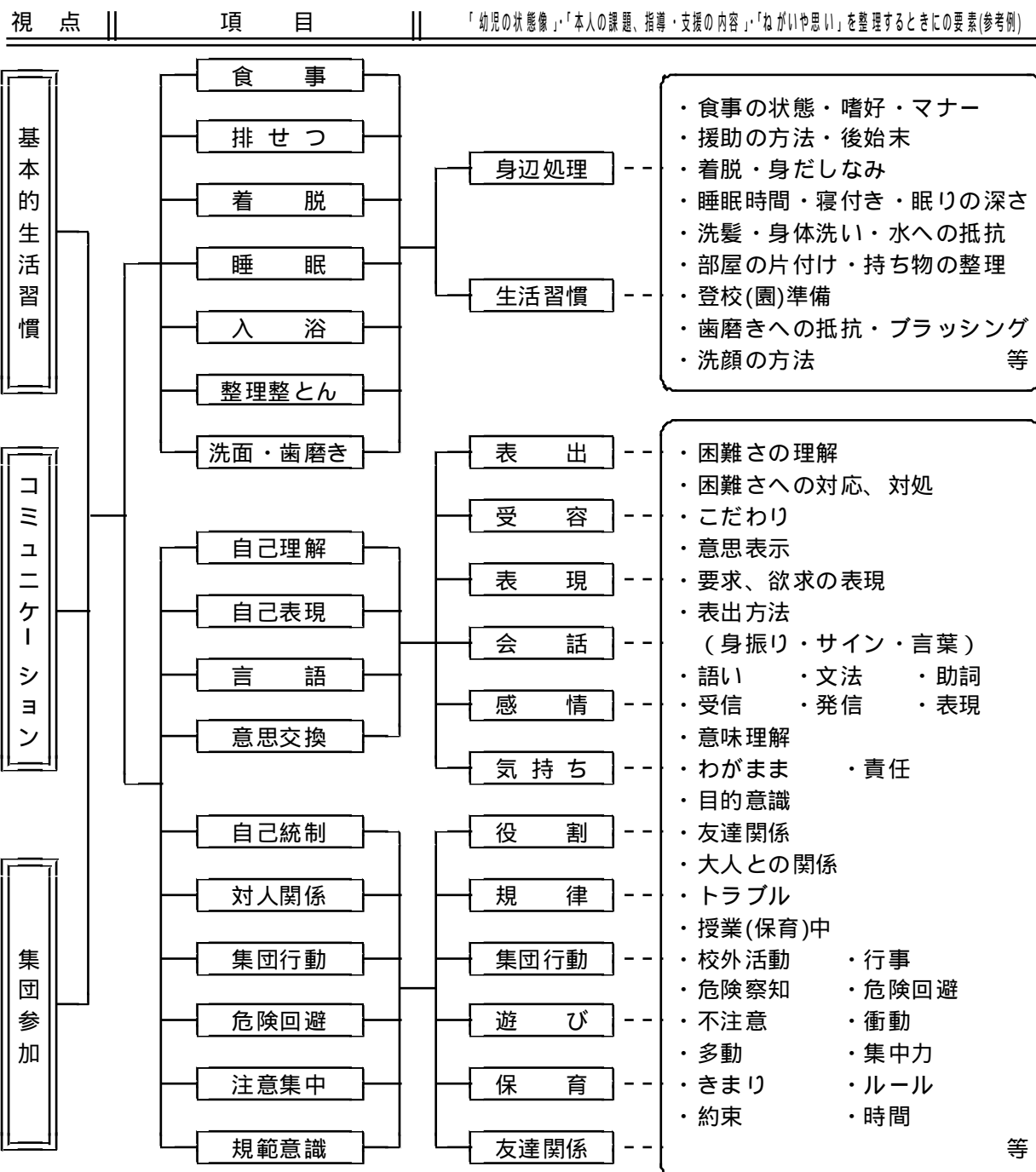
(2) 引継ぎ情報のまとめ方

引継ぎの視点には、次のような項目や要素などが含まれます。引継ぎの視点を用いて、実際の引継ぎに活用する場合は、幼児児童の状況に応じて、必要な内容を取捨したり、整理したりすることが大切です。

引継ぎの
視点

基本的生活習慣 コミュニケーション 集団参加

また、項目や要素を整理するときには、幼児児童の行動などの状態像や幼児児童の課題や指導・支援の内容及び支援者・本人・保護者のねがいや思いを考えながらまとめていくことが大切です。



幼稚園等と小学校の引継ぎ場面（引継ぎ会・文書での引継ぎ）では、幼稚園等での指導の成果や課題を小学校に引き継ぐことが大切です。

幼稚園等は、引継ぎ事項について、園での子どもの姿や指導・支援の内容や方法、将来の可能性などについて、小学校生活の開始時期に有効で役立つ情報という観点でまとめます。

また、小学校においては、学校の人的・物的な環境や特別支援教育の体制などについて、実情と見通しを幼稚園に事前に伝えることが、円滑な接続につながります。

特に、行動面に配慮が必要な幼児児童の引継ぎにおいて重要なことは、幼児が身に付けている力や場面の状況ごとの行動の仕方や変化の様子、困難さに配慮した教職員のかかわり方（指示等の理解のさせ方、生活や学習の本人なりの学び方の特性など）等が、学校生活開始時の留意事項として、まとめられていることです。

就学時に活用できる情報の観点(例)

- 基本的な生活習慣
 - 食事（ペース・食量・マナー 等）
 - 排せつ・清潔（自立の状況・後始末 等）
 - 着脱（自立の状況・身だしなみ 等）
 - 整理整頓（持ち物・準備 等）
- コミュニケーション
 - 表出（口数・声量・発声 等）
 - 受容（内容の理解・感情の理解 等）
 - 表現・会話（意思表示・やりとり 等）
 - 感情・気持ち（コントロール・不安の表現 等）
- 集団参加
 - 役割・規律（約束・順番 等）
 - 集団行動（活動・移動・危険 等）
 - 遊び・保育（参加・協力・ルール 等）
 - 友達関係（かかわり・相性・行為 等）
 - 性格や行動の特徴（不注意・集中・継続・離席・予定の変更 等）

これらのことを文書等で引継ぎを行う場合には、簡潔に表されるよう、表現を工夫することが大切です。

	状 態 像	本人の課題 指導や支援の内容・方法	ねがい
基本的 生活 習慣	○ レタスなどのシャキシャキとした食感のある食べ物を口にしない。（特性） ○ 忘れ物が多い。（特性） ○ 自分の写真を貼ったフックに脱いだ衣服をかける習慣が身に付いた。（経験・環境） ○ 初めての場所での排せつに抵抗があり、失敗することがある（特性・環境）	○ 自分で衣服を片付けられるように、家庭と連携をして、襟元にひもで輪を付けてもらうようにする。（課題） ○ 食事のマナーは、食べこぼしに対することに内容を絞って指導した。（内容） ○ 活動の時間を守り、次の活動にスムーズに移れるよう砂時計を使った。（方法）	
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	○ 言葉の裏側にある意味などのニュアンスを理解することが難しい。（特性） ○ 自分の気持ちを言葉でうまく表現できず、相手に手を出してしまうことがある。（特性） ○ 気持ちが乱れたとき、自分から別室に行き気持ちを落ち着けることができる（経験・環境） ○ 担任や教室が年度替わりで変わった年、1か月程度、気持ちが不安定になった。（特性・環境）	○ 自分の気持ちを筋道を立てて話すことができる。（課題） ○ 一つの行動や活動に対して、その都度、指示をする。（内容・方法） ○ 行動や活動の仕方や手順を図や文字にして伝える。（内容・方法） ○ 相手を傷つけるような発言をしたときには、相手の気持ちについて話し合う機会をつくる。（方法）	
集 団 参 加	○ 集団遊びでは、かかわりを好まず、離れて一人で遊んでいることが多い。（特性） ○ 事前に予定の変更を伝えたと、当初と違う予定でも取り組めるようになった。（経験・環境） ○ 勝負に負けても、我慢したり、気持ちを切り替えることができるようになってきた。（特性・経験）	○ 集団で活動するときに、仲のよい友達と一緒に行動したり、周り様子を見ながら、みんなと一緒に行動したりする。（課題） ○ 課題に取り組む時間を15分程度にして、その後3～4分の休憩を入れる。（方法） ○ 課題に向かえず、クラスから出ようとしたときは、落ち着いたらクラスに戻るよう	

記述内容を考えてときに、引継ぎの視点と項目や要素間で重なり合う場合がありますが、引継ぎの視点別に整理しなければならないものではなく、状態や課題、内容・方法が具体化されていることが大切です。

(3) 引継ぎの視点を生かすシート

これまで述べた引継ぎの方法・内容に関することをまとめるために、引継ぎのツールとして、個別の教育支援計画¹を活用することが有効です。

個別の教育支援計画の活用を図ることによって、保護者や関係機関と連携した指導や支援を充実させたり、幼児の実態把握や接続期の教育的ニーズを明らかにしたり、就学後の指導・支援の内容や方法を検討したりすることができます。

個別の教育支援計画への記入に際しては、保護者の協力や同意を得ながら、引継ぎの視点に基づいて、幼児の状態像や幼稚園等での指導・支援の内容や方法、手立て、及び支援者・本人・保護者のねがいや思いを、簡潔に記入することが大切です。

また、個別の教育支援計画のほかに、引継ぎに関する書式を使用する場合は、幼稚園等と小学校の間で書式を統一しておくことも、引継ぎの内容を双方で理解する上で有効です。

引継ぎに関する書類の作成は、市町村の教育委員会や市町村特別支援連携協議会、又は幼稚園等と小学校の間で協議して作成することが望ましいと考えます。ここでは、行動面に配慮が必要な幼児児童における、本研究の引継ぎの視点を生かしたシートを例示します。

行動面に特別な教育的支援が必要な幼児児童の幼稚園等と小学校との円滑な接続の **幼小引継ぎシート**

氏名	記入日	平成 年 月 日
所属	保護者名	
担当教員	記入者	

健康状態 ☐ 良好 ☐ 不調(口通障害 ☐ 経路困難) ☐ 風邪をひきやすい ☐ 健康上の理由で休みがちである 運動 ☐ 走 ☐ 跳 ☐ 投 ☐ 蹴 ☐ その他() 感覚 ☐ 触覚 ☐ 聴覚 ☐ 視覚 ☐ 嗅覚 ☐ 味覚 ☐ その他() 認知 ☐ 記憶 ☐ 理解 ☐ 判断 ☐ その他() 言語 ☐ 発音 ☐ 文法 ☐ 語彙 ☐ その他() 社会性 ☐ 自己肯定感 ☐ 他者肯定感 ☐ その他() 生活 ☐ 食生活 ☐ 睡眠 ☐ 排泄 ☐ その他() 学業 ☐ 算数 ☐ 国語 ☐ 英語 ☐ その他() 芸術 ☐ 音楽 ☐ 絵画 ☐ 造形 ☐ その他() 身体障害者手帳 ☐ 無 ☐ 有 () 精神障害者手帳 ☐ 無 ☐ 有 ()	療育状況 ☐ 療育 ☐ 不調(口通障害 ☐ 経路困難) ☐ 風邪をひきやすい ☐ 健康上の理由で休みがちである 運動 ☐ 走 ☐ 跳 ☐ 投 ☐ 蹴 ☐ その他() 感覚 ☐ 触覚 ☐ 聴覚 ☐ 視覚 ☐ 嗅覚 ☐ 味覚 ☐ その他() 認知 ☐ 記憶 ☐ 理解 ☐ 判断 ☐ その他() 言語 ☐ 発音 ☐ 文法 ☐ 語彙 ☐ その他() 社会性 ☐ 自己肯定感 ☐ 他者肯定感 ☐ その他() 生活 ☐ 食生活 ☐ 睡眠 ☐ 排泄 ☐ その他() 学業 ☐ 算数 ☐ 国語 ☐ 英語 ☐ その他() 芸術 ☐ 音楽 ☐ 絵画 ☐ 造形 ☐ その他() 身体障害者手帳 ☐ 無 ☐ 有 () 精神障害者手帳 ☐ 無 ☐ 有 ()
--	--

■基本的な生活習慣■

起床 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている ベース ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 食事 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 排泄 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 睡眠 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 生活 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 学業 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 芸術 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている	起床 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている ベース ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 食事 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 排泄 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 睡眠 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 生活 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 学業 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 芸術 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている
---	---

■コミュニケーション・集団参加■

集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている	集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている 集団参加 ☐ 自立している ☐ 習慣になっている
--	--

■生活・指導・支援の成果・状態像の宣伝の様子・特記事項■

P.P.14-15に掲載

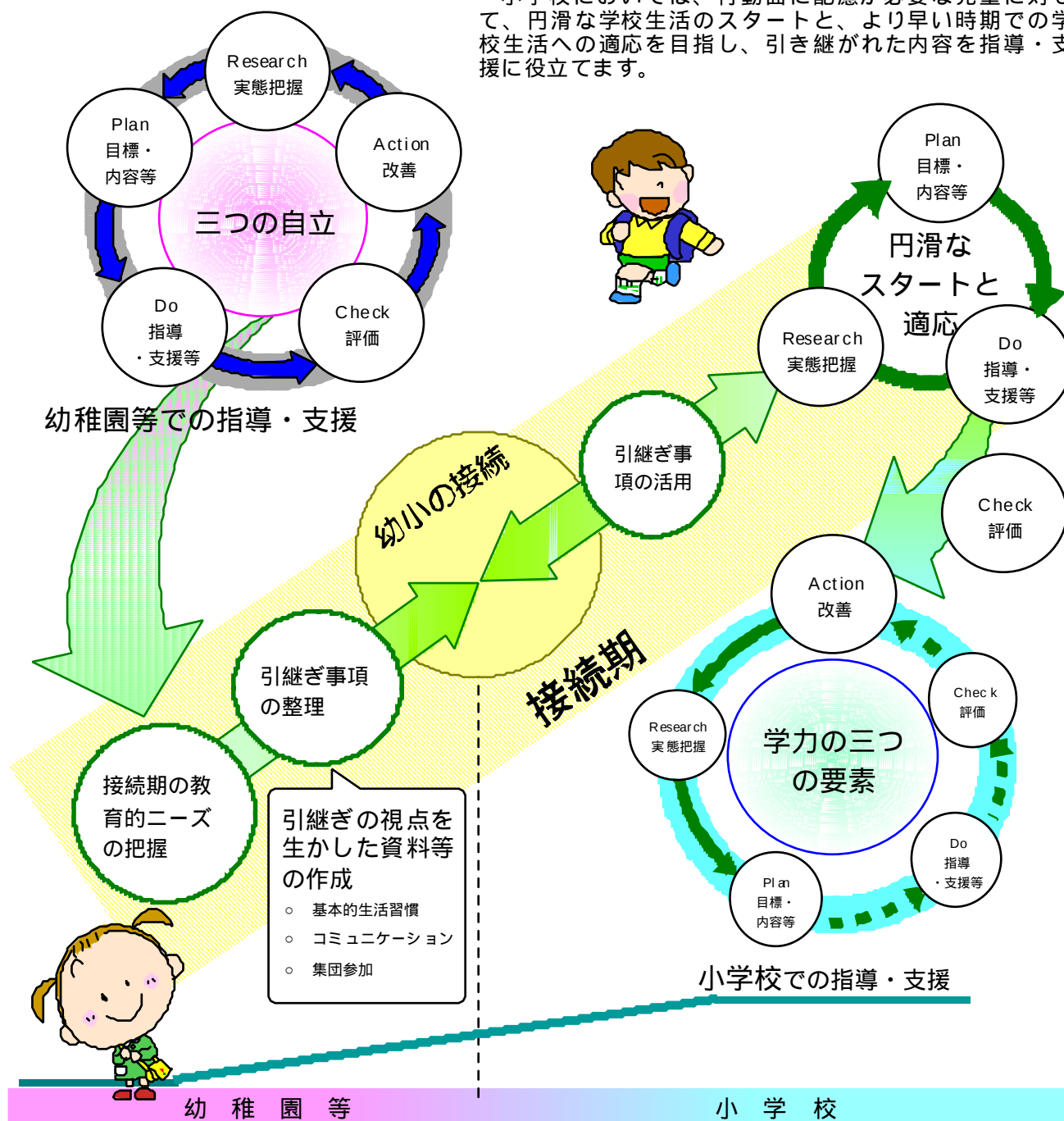
1 平成15年度から実施された障害者基本計画においては、教育、医療、福祉、労働等が連携協力を図り、障害のある子どもたちの生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における子どもたちの望ましい成長を促すため、個別の支援計画の活用が示された。この個別の支援計画のうち、幼児児童生徒に対して、教育機関が中心となって作成するものを、「個別の教育支援計画」といいます。(平成21年6月特別支援学校学習指導要領解説より引用)

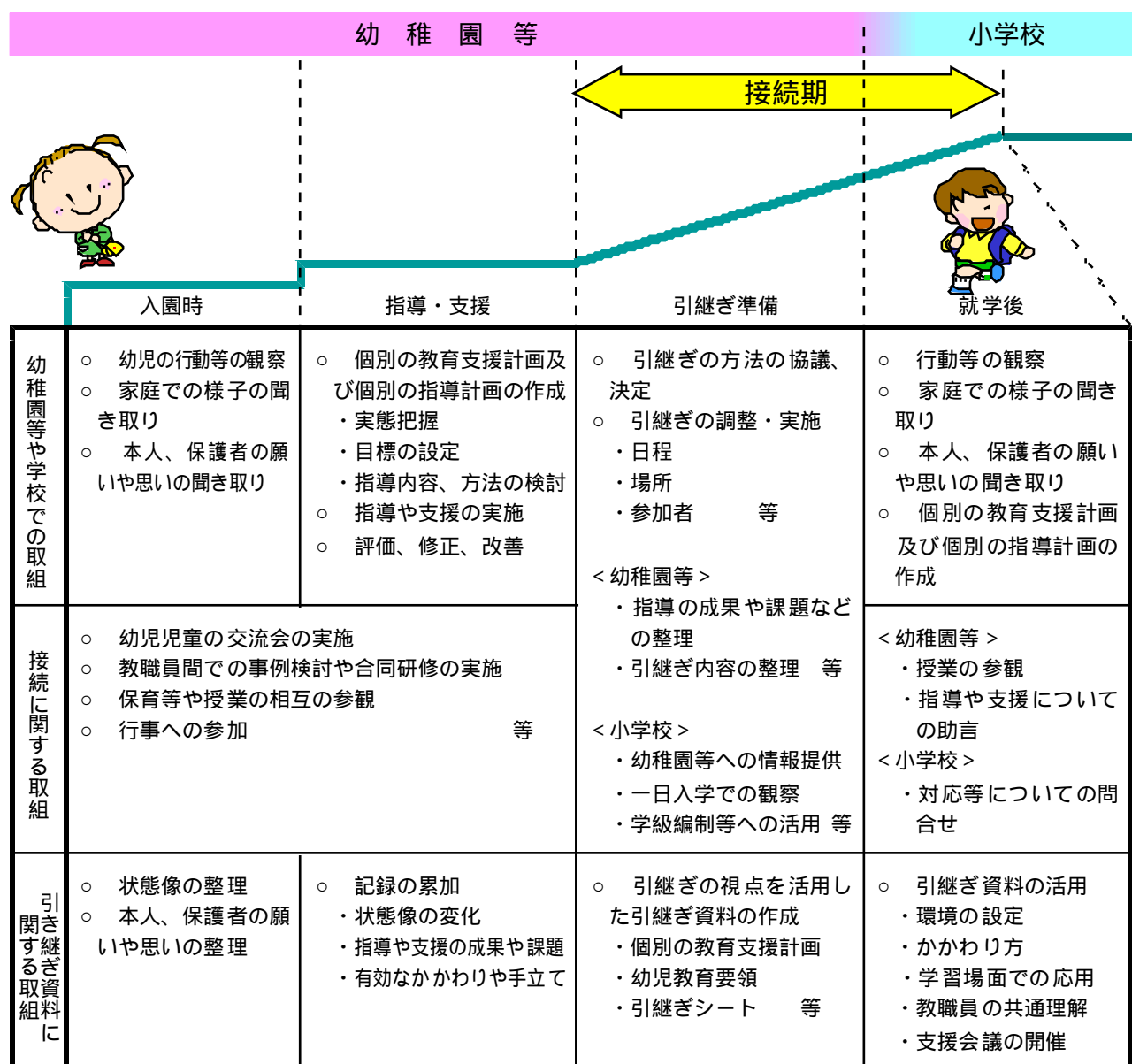
5 幼稚園等と小学校との接続の在り方

幼小の接続においては、幼稚園等と小学校とが、子どもの発達や学びの連続性を踏まえながら、それぞれの教育に見通しをもって取り組むことが大切です。

幼稚園等と小学校が円滑な接続を図るためには、幼稚園等で明らかにした接続期の教育的ニーズを引継ぎの視点でまとめ、小学校に引継ぎます。

小学校においては、行動面に配慮が必要な児童に対して、円滑な学校生活のスタートと、より早い時期での学校生活への適応を目指し、引き継がれた内容を指導・支援に役立てます。





幼小の円滑な接続とは、幼稚園等と小学校が様々な取組を通して、幼児の情報を共有し、一貫した支援につなげていくことであると考えます。そのためには、接続する幼稚園等と小学校がそれぞれの取組を知るための連携体制（接続の体制づくり、幼児児童や教職員の交流の場の設定等）の構築が非常に重要です。

連携体制については、接続する当該の幼稚園等や小学校のほかに、市町村の教育委員会や保健福祉の部局、発達支援センター及び幼児児童が関係する各機関が必要に応じて参加することが大切です。

行動面に特別な教育的支援が必要な幼児児童の幼稚園等と小学校との円滑な接続の

幼小引継ぎシート

氏 名			記入日	平成 年 月 日
所 属			保護者名	
問合せ電話			記入者	
得意な面・よい点			健康面	健康状況 ☐ 良好 ☐ 不調(☐ 通院中 ☐ 経過観察) ☐ 風邪をひきやすい ☐ 健康上の理由で休みがちである ☒ アレルギー ☐ 無 ☐ 有 () ☒ アトピー性皮膚炎 ☐ 無 ☐ 有 () ☒ ぜんそく ☐ 無 ☐ 有 ()
家庭環境等	個別の教育支援計画の作成についての保護者の参画 ☐ 参画している ☐ まだ参画していない 幼児のつまずきについての保護者の気付き ☐ 気付いている ☐ まだ気付いていない		診断等	☒ 医師による診断 ☐ 無 ☐ 有 ☒ 診断名 () ☒ 医療機関 () ☒ 療育手帳 ☐ 無 ☐ 有 () ☒ 身体障害者手帳 ☐ 無 ☐ 有 (種 級)
支援等	園での支援 ☐ 無 ☐ 有 ☐ 園内体制の中で支援 ☐ 支援員や介助員等の加配による支援			

■ 基本的生活習慣 ■

食 事	着 脱
☐ 自立している ☐ 習慣になっている	☐ 自立している ☐ 習慣になっている
ペース ☐ 特に早い ☐ 特に遅い 食 量 ☐ 大食 ☐ 小食 自他の区別 ☐ 難しい 食べこぼし ☐ 無 ☐ 有 アレルギー ☐ 無 ☐ 有 過 敏 性 ☐ 無 ☐ 有 偏 食 ☐ 有 (☐ 味覚・ ☐ 臭覚) ☐ 無 ☐ 有 ☐ 園では食べられる	服の着脱 ☐ 自立 ☐ 援助が必要 スポンの着脱 ☐ 自立 ☐ 援助が必要 ボ タ ン ☐ できる ☐ 難しい ファスナー ☐ できる ☐ 難しい 身だしなみ ・ 裾 入 れ ☐ 気付いて入れられる ☐ 言葉かけで入れられる ☐ 難しい ・ 前後表裏 ☐ 間違えない ☐ 時々間違える ☐ いつも間違える ・ 靴の左右 ☐ 間違えない ☐ 時々間違える ☐ いつも間違える
排せつ・清潔	整理整とん等
☐ 自立している ☐ 習慣になっている	☐ 習慣になっている
援助の程度 ☐ 言葉かけ ☐ 定時排せつ 排せつ後の ☐ ふき取りが不十分 始末 ☐ 自立 ☐ 習慣になっていない 手洗い・うがい ☐ 自立 ☐ 習慣になっていない 清 潔 ☐ 汚れに無頓着 ☐ 衣服がいつも汚れている	持 ち 物 ☐ 著しく乱雑 ☐ 頻繁に紛失 ☐ 物をなくすことが多い ☐ 忘れ物が多い 準 備 ☐ 自分で行う ☐ 援助が必要
	その他
	睡 眠 ☐ いつも寝不足である ☐ 昼夜逆転している 洗顔・入浴等 ☐ 水が好き(固執) ☐ 入浴に強い抵抗がある ☐ 洗顔に強い抵抗がある ☐ 歯磨きに強い抵抗がある ☐ 顔に水が付くのを嫌う

■ コミュニケーション・集団参加 ■

顕著に表れている場合にチェックする

性格や行動の特徴		
☐ やさしい ☐ 活発 ☐ 明るい ☐ 元気 ☐ おとなしい ☐ 興味がある ☐ おっとりしている ☐ 几帳面 ☐ 緊張度が高い ☐ わがままな面がある ☐ 乱暴なところがある	☐ そわそわしたり、きょろきょろしたりする ☐ じっと座ってられない ☐ いつも動き回っている ☐ ちょっとした物音で気が散る ☐ 不注意な間違えが多い ☐ 注意し続けることが難しい ☐ 過敏性がある ☐ 耳ふさぎがある ☐ 触られるのを極端に嫌がる ☐ 特定のにおいを極端に嫌がる	☐ 年齢不相応なスキンシップや身体接触を求める ☐ 予定が急になると混乱する ☐ 特定の習慣や手順にたたくにこだわる ☐ 課題や活動を順序立てて行うことが難しい ☐ 言葉の裏の意味を感じ取れない ☐ 物などを示し具体的に示さないと理解が難しい ☐ 新しい場面でなかなか慣れない ☐ 指しゃぶりがあがる ☐ チックがある ☐ 選択性かん黙がある

表 出	受 容
☐ 言葉で話をしたり、伝えたりできる ☐ 数量 ☐ 発声 ☐ 発語 ☐ 発言 ☐ 発表 ☐ 極端に多い ☐ 非常に大きい ☐ 吃音がある ☐ 幼児語がある ☐ 私語が多い ☐ 積極的 ☐ 極端に少ない ☐ ごく小さい ☐ 構音のあやまりがある ☐ 独り言が多い ☐ 消極的 ☐ 自信がない	☐ 話の内容や相手の気持ちが分かる 内容理解 ☐ 個別に指示や説明が必要である ☐ 話を聞いていないように見える 感情理解 ☐ 相手の表情・気持ちの理解が苦手である ☐ 視線が合いにくい
表現・会話 ☐ 自分の気持ちを伝えられる ☐ 言葉で相手とのやりとりができる 意思表示 ☐ 単語での意思表示が多い ☐ 指差しやクレーンがある やりとり ☐ 話し言葉による意志交換が難しい ☐ 筋道を追って話すことが苦手である ☐ 助詞を間違えて使ってしまう ☐ 話している途中で別の話題に移る ☐ 話の最中に話し始めてしまう	感情・気持ち ☐ 話をしたり、自分で考えて気持ちの整理が付く ☐ 気持ちが大きく乱れることは少ない ☐ 機嫌や感情の起伏が大きい ☐ 自分で気持ちをコントロールするのが難しい ■ 思い通りにならない場合 ☐ 気持ちが乱れてしまう ☐ イライラしてしまう ☐ 気持ちの切替えが苦手である ■ 自分の間違えに気付いたときに ☐ 自分の非を認めたくない／考えを変えたくない ☐ 言い訳をしてしまう ☐ 人のせいにしてしまう ■ 不安の表現 ☐ 暴れてしまう ☐ 激しい痙攣を起こしてしまう ☐ やる気がなくなる ☐ 怒りがなかなか納まらない ☐ 口調が乱暴になる ☐ 自傷行為がある ☐ 他害行為がある ☐ 物にあたる／壊す ☐ パニックになる ☐ 長泣きをする
役割・規律 ☐ 自分の役割が分かり、遂行できる ☐ 約束やきまりが守れる ☐ 役割や仕事を途中で止めてしまう ☐ 意に沿わないことに取り組むことが難しい ☐ 行動が終わっていないのに別のことを始めてしまう ☐ いけないと分かっているのに、ついついやってしまう ☐ 仕事や役割の内容を忘れてしまう ☐ 自分の気持ちが先に立って約束が守れない 順 番 ☐ 守ることが難しい ☐ 待つことが苦手である ☐ 友達に譲れない ☐ 横から入り込んでしまう	集団行動 ☐ みんなと一緒に行動できる ☐ 大人と一緒に行動することが必要である ☐ 個別での指示が必要である ☐ 集団から離れ自分なりの行動をしてしまう ☐ 集団で移動で、ついてくるのが難しい ☐ 危険の察知や回避が難しい ☐ 興味の移り変わり離れてしまう ☐ 次の行動に移るのが難しい
遊び・保育 ☐ みんなと一緒に遊ぶ ☐ ルールや約束を守って遊ぶ ☐ 課題に一定時間集中して取り組む ☐ 集団場面より、一対一場面の方が落ち着いていられる ☐ 友達と協力した遊びが苦手である ☐ こっこ遊びやゲームのルールが理解しづらい ☐ 勝ち負けや一番にこだわってしまう ☐ 遊びの途中で別の遊びに移ってしまう ☐ 特定の遊びにこだわっている ☐ 身体の動きがぎこちなさがある ☐ 手指を使うことが不器用である ☐ 話合いに参加するのが難しい	友達関係 ☐ 友達と友好的にかかわることができる ☐ 友達とかかわることが苦手である ☐ トラブルになることが頻繁にある ☐ 乱暴なかかわりになってしまう ☐ 些細なことでもけんかになってしまう ☐ 相性の悪い友達がいる ☐ 仲のよい友達が限定されている ☐ いつも弱い立場にある ☐ 他児にちょっかいをかけることが多くある ☐ 他児の行為に対して怒ることがある ☐ 特定の子どもに対し、叩いたり、かわりを求める ☐ 他の人がしていることをじゃましてしまう
困難さに対する手立てやかかわり・指導や支援の成果・状態像の変化の様子・特記事項	

地域で幼稚園等と小学校との接続を進めるために

この章では、3つの事例を通して、効果的な幼小の接続の在り方について述べます。

1 個別の教育支援計画を効果的に活用した引継ぎ

事例1

6歳男児のAさんは、入園時より多動傾向があり、幼稚園での活動場面では先生の説明を聞かずに自分勝手に行動してしまうことがよくありました。

子どもの状態像と 指導・支援の内容の整理

幼児の状態像	特 性	- 話を聞くことが苦手。 - 園庭を走り回って、他の園児とぶつかることがある。
	経 験	- 友達同士仲がよい。 - 言われたことは分かったと言うが忘れてしまう。
	環 境	- 行動面で注意を受けることが多い。 - 本児の行動が引き金となり、他の園児とけんか等のトラブルがある。

本人の課題や 指導・支援の内容

【言葉】

- ゆっくりと具体的に話す。
- 精神的に落ち着いているときに話しかける。

【集団参加】

- 約束事を目につく場所に掲示する。
- 約束事を守ったら褒め、御褒美のシールを渡す。

【運動】

- 運動の得意な面を活用して自己評価を高める。

【願いや思い】

- 落ち着いて行動できるようになってほしい。
- 集団場面で話が聞けるようになってほしい。

支援者・本人・保護者

三つの自立

学びの自立

教師の話を聞いてから行動する

生活上の自立

友達と協力して活動できる

精神的自立

自己評価を高め、自信をもって活動に参加できる

引継ぎの視点での整理

基本的生活習慣

- 身辺処理は自立している。
- 片付けは、まだ未定着である。

コミュニケーション

- 集団への指示や説明は、要点のみを簡潔に話すと理解できることが多い。

集団参加

- 事前に時間や活動内容について知らせることで、活動に見通しをもち、落ち着いて参加することができる。
- 約束事を決め、守れたときにはシールを貼るなどの意欲付けがあると意識することができる。
- 全員に守ってほしいことは、掲示物として提示し、注意を促している。

小学校に
引き継ぐ



個別の教育支援計画による引継ぎ

引継ぎの視点に沿って個別の教育支援計画の支援内容の評価を整理しました。

基本的生活習慣
コミュニケーション
集団参加



Aさんの個別の教育支援計画

幼稚園の担任のB先生は、毎日Aさんの様子を記録しました。その記録から、Aさんは、約束を守ったときにももらえるシールが増えていくのが楽しいようで、少しずつ廊下を走る回数が減りました。

B先生は、保護者と相談し、個別の支援計画を作成することにしました。個別の教育支援計画には、幼稚園で指導した手立てと方法、成果を、引継ぎの視点に沿って記載しました。

小学校に個別の教育支援計画を引き継ぐときには、Aさんの様子がより伝わりやすいよう、教材として活用した御褒美のシールを貼った表を写真に撮り、個別の教育支援計画に添付しました。

● 支援内容等

支援の目標(短期)	支援内容	評価
廊下は静かに歩く。	- 職員がいつも注意を促します。指導の際は掲示物を使用します。 - 約束事は掲示物にして張り出します。 (作成した掲示物) やくそく ・ろうかはゆっくりあるきます。 ・えんていとプレイルームをはしります。 - 約束が守れたら、シールを表に貼ります。	- 約束を守ることでシールが増えることを楽しみにしており、廊下を走ることは少なくなった。 - 時々、友達にも注意を促す場面が見られるようになった。
集団場面での指示や説明を聞き、要点を理解して行動する。	- 集団場面での指示や説明は、幼児が教師に注目していることを確認してから行います。 - 指示や説明は、簡潔に要点のみを話すようにします。 - 指示を確認するときには、内容を復唱させます。	- 話し手への注意を引き付けることで、指示や説明を理解できるようになった。 - 説明の終わりまで話を聞いてから、行動するようになった。

個別の教育支援計画を効果的に活用した引継ぎの事例

個別の教育支援計画の活用



小学校のC先生は、幼稚園から引き継がれた個別の教育支援計画を読みました。御褒美シールを貼った表の写真が付いていたので、どのように使ったのか、改めて幼稚園に電話をして尋ねました。

小学校での学習が始まり、Aさんが、授業中に立ち歩く様子が見られました。C先生は、学級全体に授業中の約束を提示し、守れた児童には、御褒美シールを渡すようにしました。

幼稚園で取り組んだ内容が具体的に書いてあり、また写真や電話などで詳しい様子を知ることができたので、Aさんに対して、すぐに対応することができました。

Aさんは、小学校の生活をスムーズにスタートさせることができました。

2 本人にとってのキーパーソンが寄り添いながらの引継ぎ

事例2

6歳女兒のDさんは、言葉の遅れを指摘された3歳児健診以降、発達支援センターに通っています。

発達支援センターでDさんを担当しているE先生は、Dさんの状態像（特性、経験、環境）だけでなく、両親の願いや思いなどについてもよく知っています。

子どもの状態像と指導・支援の内容の整理

幼児の状態像	特性	・友達と簡単な会話をすることが難しい。
	経験	・マイペースである。 ・身辺自立は確立している。
	環境	・新しいことに取り組むときは、不安で泣いてしまうことがある。

本人の課題や指導・支援の内容

【言葉】

- 正しい言葉遣いができるように教師が模範となる。

【コミュニケーション】

- 大人の介入によって、子ども同士のかかわりを増やす。

【情緒】

- 分かりやすく具体的に伝え、新しい活動への不安を軽減する。

【願いや思い】

- みんなと仲良く過ごしてほしい。
- 言葉をたくさん覚えてほしい。

支援者・本人・保護者

三つの自立

学びの自立

分かる言葉を増やす

生活上の自立

友達と一緒に活動する楽しさを知る

精神的な自立

自信をもって行動できる

引継ぎの視点での整理

基本的生活習慣

- 身辺自立は確立している。

コミュニケーション

- 言葉を間違えて使っていたり、語いが少なかったりするため、子ども同士のコミュニケーションがうまくいかない。
- 大人との会話は、本人が分かる言葉で具体的に伝えたと理解できる。
- 3歳から言葉の訓練のために、発達支援センターを利用している。

集団参加

- 自分から遊びに加わるが、言葉遣いを間違えるため、トラブルに発展することがある。

小学校に引き継ぐ



関係機関との連携



Dさんを支援をしている人たちが、全員同じ方針で取り組んでいます。必要なときに私が、お母さんの声を代弁することもあります。

発達支援センターのE先生

お母さんは、Dさんの成長に関することをE先生に相談しています。また、小学校入学に向けて、友達と仲良くできるように、会話が上手になってほしいと願いました。

幼稚園では、Dさんがスムーズに会話ができるようになるために、発達支援センターと連携した指導に取り組みました。

発達支援センターでは、少人数の療育の中で、言葉遣いを学ぶため、先生が適切な言葉の使い方や会話の見本を見せています。幼稚園でも、会話の場面では、先生が見本を見せるよう配慮しました。この取組はDさんだけではなく、ほかの子どもたちも正しい言葉遣いになるよう園全体で取り組んでいます。

家庭でも、たくさん会話をして、言葉のやりとりを増やすようにしています。

特徴

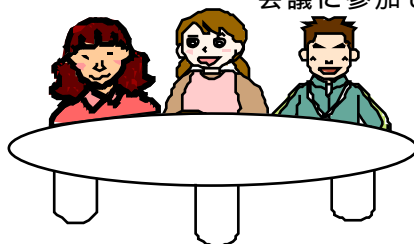
幼稚園では、個別の教育支援計画を作成しました。



得意なこと、好きなこと、興味・関心の強いこと	泣いている子どもや、草花などのきれいなものに興味がある。興味があると見入ってしまい、行動が遅れてしまう。
苦手なこと、嫌いなこと、避けなければならないこと	3歳児健診で言葉の遅れを指摘され、発達支援センターで療育を受けている。 同年齢の子どもと比較して語い数が少なく、日常的に耳にする言葉の中にも意味理解があいまいな言葉がある。
心理的な安定	新しい活動に対する不安感が強く、泣いてしまうことがある。個別に具体的に言ってみせると理解できることもある。
環境の把握	集団行動や遊びの場面では状況の把握が難しい。活動場面では行動が遅れがちになる。 事前に活動を知らせると見通しをもって行動できることがある。

引継ぎの会議

小学生になっても、Dさんを守ります。



小学校就学後に向けての引継ぎの会議には、両親、小学校と幼稚園の先生のほかに発達支援センターの先生も同席しました。

幼稚園の先生からは、個別の教育支援計画をもとに、幼稚園で行ってきた支援の内容と本人の状態像について引継ぎを行いました。

E先生は、これまでのDさんの成長の様子や発達支援センターの指導や支援の内容だけでなく、保護者のこれまでの苦労などについても話しました。

小学校入学後も、発達支援センターの先生は、支援会議に参加し、情報交換することになりました。

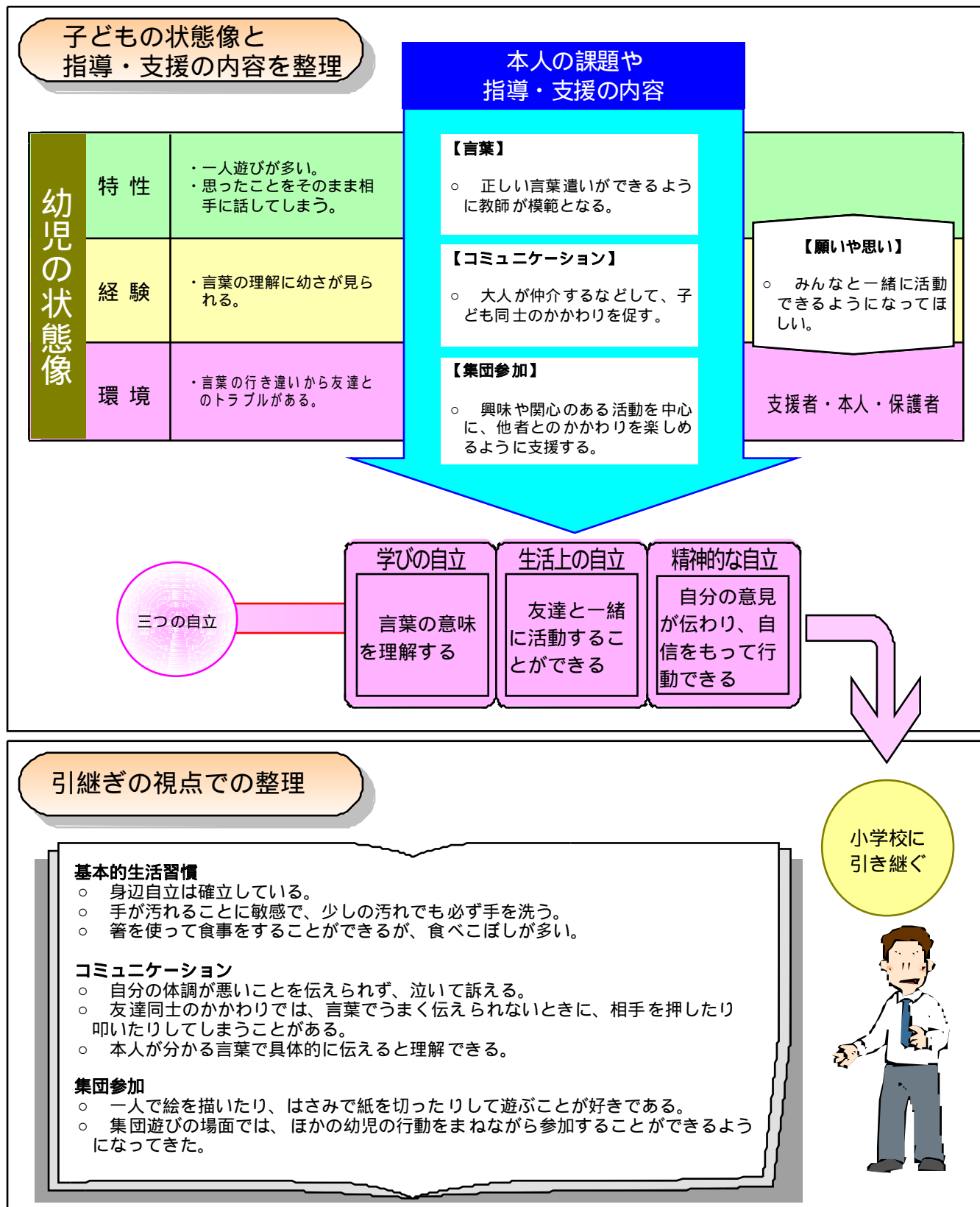


Dさんが4月から小学校に就学します。それまでに取り組めることや必要な支援について話し合いをしましょう。

3 市の教育委員会が中心となって進める幼小の引継ぎ

事例3

F市に住む、5歳男児のGさんは、友達とのコミュニケーションがうまく図れないことが課題でした。



就学相談の実施

小学校就学を控え、Gさんの保護者と幼稚園の担任の先生は、本人の現在の発達の状態と就学に当たっての不安について相談しました。その結果、F市就学指導委員会の就学相談を受けることにし、F市教育委員会に問い合わせました。

F市就学指導委員会の相談員が幼稚園を訪問し、本人の様子を観察したり、担任・保護者からの聞き取りや発達検査を実施しました。

コミュニケーションの難しさは、他者とのかわりの苦手さだけでなく、言葉の意味理解と助詞の理解が不十分なことが原因であることが分かりました。

「絵本の読み聞かせなどでは、絵や写真を用いて言葉の意味理解を図るようにする」など幼稚園や家庭でできる支援についてアドバイスがありました。

幼児と児童の交流

毎年恒例の行事となっている、幼稚園年長児と小学校1年生との「餅つき会」に向けて、教職員間で打合せを行いました。行事の実施方法だけでなく、就学予定の幼児について引継ぎの視点から情報交換を行いました。

幼児と児童の交流では、幼児が小学校へ行くことに期待感を高め、小学生も、幼い子どもをいたわる気持ちが育ちます。また、教職員間で話し合いを進めることは、お互いの教育の内容を理解し、幼児や児童の理解を進めることにもつながります。

幼稚園では集団での活動が苦手なGさんですが、活動内容が分かることで落ち着いて参加できます。絵や写真などを使うと分かりやすいようです。



連携

小学校の先生たちにもGさんの状況を伝えます。交流のときも気にかけて話しかけてみますね。



幼保小引継ぎ連絡会の開催

F市では、複数の幼稚園・保育所から、複数の小学校に就学することから、F市教育委員会が主催する「幼保小引継ぎ連絡会」が行われています。「F市幼保小引継ぎ連絡会」では、各幼稚園・保育所が保護者に了承を得ながら、小学校に就学する全ての幼児を対象に作成した「F市幼児引継ぎシート」(下表)をもとに行われます。「F市幼児引継ぎシート」のほかに、個別の教育支援計画や担任の記録をまとめたもの、教材などを提示して引継ぎを行うこともあります。

F市幼児引継ぎシート

氏名	園・所名	幼稚園
基本的な生活習慣	食事：(食べこぼし) 排泄：排便(ふき取り) 衣服：ボタン()	○ 身辺自立は確立している。 ○ 手が汚れることに敏感で、少しの汚れでも必ず手を洗う。 ○ 箸を使って食事をする事ができるが、食べこぼしが多い。
コミュニケーション	あいさつ() 返事() 要求()	○ 自分の体調が悪いことを伝えられず、泣いて訴える。 ○ 友達同士のかかわりでは、言葉でうまく伝えられないときに、相手を押しやり叩いたりしてしまうことがある。 ○ 本人が分かる言葉で具体的に伝えたと理解できる。
集団参加	きまり・ルール(×) 対人関係() 自己統制()	○ 一人で遊ぶことが多い。 ○ 一人で絵を描いたり、はさみで紙を切ったりして遊ぶことが好きである。 ○ 集団遊びの場面では、ほかの幼児の行動をまねながら参加することができるようになってきた。

入学後の連携

Gさんが小学校に入学して最初の参観日に、幼稚園の担任の先生は、Gさんの様子を見に行きました。Gさんは、授業中の発表は難しかったものの、学習活動に積極的に取り組み、たいへん元気そうでした。

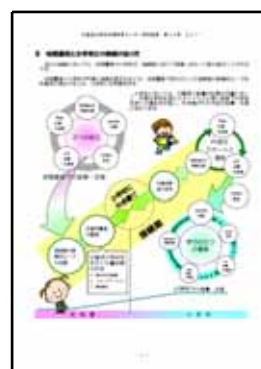
まとめ

1 研究の成果

- (1) 幼小の円滑な接続を進めるために、行動面に特別な教育的支援が必要な幼児児童の状態像と、本人の課題や指導・支援の内容等、及び支援者・本人・保護者の願いや思いから指導の手立てや配慮事項など、引継ぎに必要な情報の内容を示しました。
- (2) 行動面に特別な教育的支援が必要な幼児児童における「学びの基礎力」を育成する力を示し、「三つの自立」と「学力の三つの要素」から、幼小の接続に必要な引継ぎの視点を明らかにしました。
- (3) 幼小の接続について、引継ぎの視点の項目や要素等で整理していくことで、幼稚園等と小学校が幼児の情報を共有することを明らかにしました。
- (4) 円滑な引継ぎを行うために、幼児が在園している期間中の幼稚園等や小学校での接続に関する取組の要点をまとめ、引継ぎのツールとして視点を生かしたシートを例示しました。
- (5) 接続のための取組を、工夫しながら地域で取り組んでいる引継ぎの実践例や幼児の事例を通して例示しました。



「学びの基礎力の育成」と「三つの自立」や「学力の三つの要素」から、引継ぎの視点を示しました。



幼稚園等と小学校が、見通しをもって接続に取り組むための在り方を示しました。

2 今後の課題

(1) 幼小との連携・交流

幼小の引継ぎを一層充実していくためには、日ごろからの連携が大切です。連携の取組は、幼稚園等と小学校がお互いに利益のある内容が望ましいため、幼児と児童や教職員同士の交流など、人の交流だけでなく、学習内容のつながりや幼児の支援のつながりを意識しながら具体的な取組を行うことが大切です。また、道内の幼稚園の約8割が私立幼稚園であるため、教育委員会をはじめとする関係部局が連携しながら、具体的な連携の取組を実施していくための環境を整備していくことも重要です。

(2) 一貫した指導や支援を行うための就学相談・指導の充実

一人一人の接続期の教育的ニーズに対応した適切な指導及び必要な支援をするには、個別の教育支援計画の作成・活用を図りながら、一貫性をもたせることが大切です。そのためには、早期に就学相談・指導を開始することや、就学前から卒業後まで継続的な相談・指導を行うための体制づくりをすることが大切です。

引用文献

- 1) 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議(2010) 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について.
- 2) 特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議(2009) 特別支援教育の更なる充実に向けて(審議の間とりまとめ)～早期からの教育支援の在り方について～.
- 3) 鳥居深雪(2008) こんな子いるよね! 幼児期からの特別支援教育. 明治図書.
- 4) 竹林地毅(2002) 個別の指導計画の作成の意義と教育的ニーズのとらえ. 国立特殊教育総合研究所

参考文献

- 1) 独立行政法人国立特殊教育総合研究所(2005) LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド. 東洋館出版社.
- 2) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2006) 「個別の教育支援計画」の策定に関する実際研究.
- 3) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2008) 研究紀要第35巻 我が国の特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズについての考察ー英国の教育制度における「特別な教育的ニーズ」の視点からー.
- 4) 本郷一夫(2010) 保育の場における「気になる」子どもの理解と対応ー特別支援教育の接続ー. おうふう.
- 5) 藤原義博(2005) 保育士のための気になる行動から読み解く子ども支援ガイド. 学苑社.
- 6) 石塚謙二(2010) 気になる幼児の育て方ー子どもに「寄り添う」ことでよりよい支援がわかるー. 東洋館出版社
- 7) 岩手大学(2007) 教育学部研究年報第6巻. 個々の教育的ニーズにこたえ、社会生活力を育み支援していくための授業実践(1)ー研究の経過とエンパワメント概念の確定ー.
- 8) 香川邦生(2005) 個別の教育支援計画の作成と実践ー特別なニーズ・気になる子どもの支援のためにー. 教育出版.
- 9) 柏市教育委員会(2009) 柏市の実態を踏まえた乳幼児の発達の主な特徴.
- 10) 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2005) 幼児期から児童期への教育.
- 11) 小枝達也(2008) 5歳児健診ー発達障害の診療・指導エッセンスー. 診断と治療社.
- 12) 厚生労働省(2008) 保育所保育指針解説書.
- 13) 熊本県・熊本県教育委員会(2009) 「幼・保、小、中連携ステップ」推進の手引き就学前から、系統的に.
- 14) 文部科学省(2008) 幼稚園教育要領.
- 15) 文部科学省(2008) 幼稚園教育要領解説.
- 16) 文部科学省(2008) 小学校学習指導要領.
- 17) 文部科学省・厚生労働省(2009) 保育所や幼稚園等と小学校における連携事例集.
- 18) 文部科学省(2008) 小学校学習指導要領解説総則編.
- 19) 文部科学省(2009) 幼稚園幼児指導要録の改善について(通知).
- 20) 文部科学省(2010) 幼児理解と評価.
- 21) ももいまりこ(2009) 子どもの成長と発達の障害. 永井書店.
- 22) 大分県・大分県教育委員会(2010) 幼児教育と小学校教育の連携ガイドブックー夢に挑戦し自己実現する子どもー.
- 23) お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校(2006) 子どもの学びをつなぐー幼稚園・小学校の教師で作った接続カリキュラムー. 東洋館出版社.
- 24) 両角美映(2008) 発達が気になる子どもの保育. 黎明書房.

- 25) 篠原孝子・田村学(2009)こうすればうまくいく!幼稚園・保育所と小学校の連携ポイント.ぎょうせい.
- 26) 須田正信(2009)基礎からわかる特別支援教育とアセスメント.明治図書.
- 27) 中央教育審議会初等中等教育分科会特別支援教育の在り方に関する特別委員会(2010)特別支援教育の在り方に関する特別委員会 論点整理.
- 28) 中央教育審議会(2008)幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)。
- 29) 若月芳浩(2007)特別支援教育で育つ子どもたち～幼稚園・保育所の実例～学事出版。
- 30) 渡邊健治(2010)幼稚園・保育園等における手引き書「個別の(教育)支援計画」の作成・活用。ジアース教育新社。

抄 録

分類記号	主 題 名	幼児期における指導の手立てと成果を小学校へ円滑に接続するための方策	
I 1 - 0 1			
北海道立特別支援教育センター		平成 2 3 年 3 月	2 4 ページ
本研究は、特別な教育的支援が必要な幼児児童が一貫した指導や支援を受けるために、幼稚園等から小学校への引継ぎの視点と、幼小の円滑な接続のための方策について明らかにした。 引継ぎの内容としては、幼稚園等での指導の手立てや配慮事項を幼児の状態像と、本人の課題や指導・支援の内容等、及び支援者・本人・保護者の願いや思いから把握できることを示した。 「三つの自立」と「学力の三つの要素」を行動面に配慮が必要な幼児児童における身に付けた力から、「学びの基礎力」を育成する力を示した。さらに、「学びの基礎力」を育成する力を焦点化することで、引継ぎの視点を明らかにした。 また、引継ぎの方法としては、引継ぎの視点を活用するための内容や要素例を示し、引継ぎのための情報の整理や引継ぎのためのシートを例示し、在園期間中の支援者等の取組について要点をまとめた。 さらに、地域で取り組まれている幼小の接続の事例を通して、接続の具体的な方策についてまとめた。			
キーワード	行動面に特別な教育的支援が必要な幼児児童、幼小の接続、引継ぎ、接続期の教育的ニーズ、学びの基礎力の育成、三つの自立、学力の三つの要素、個別の教育支援計画、幼児の就学、市町村教育委員会		